

診療情報及び診療時に採取・保管された検体を用いた研究に関するお知らせ  
 国立病院機構福岡病院

福岡病院での診療情報を下記の研究に用いることになりましたのでお知らせします。

記

1. 研究代表者	本村 知華子
2. 研究課題名	気管支喘息小児における縦隔気腫、皮下気腫入院例の変化(1986年-1995年との比較)
3. 研究の概要	[研究の背景] 縦隔気腫は小児患者においてまれであり、救急外来受診者の発生率は0.0025%と報告されています。皮下気腫を伴う場合もあります。通常は自然治癒するため、支持療法のみが必要となります。2010年の報告では発生率の年齢別ピークは2つであり、下部気道感染症が原因の7歳未満の小児と喘息の増悪と上部気道感染症が原因である青年期であると報告されています。喘息の悪化は、以前から縦隔気腫の原因とされてきましたが、喘息児に関する詳しい調査はほとんどありません。そこで最近10年間に当院小児科に入院した縦隔・皮下気腫患者の臨床的特徴と転帰、喘息発作入院患者における発生率を明らかにし、26年前の同様の調査と比較しその変化を検討する目的で調査を行います。
(個人情報の利用の目的)	最近10年間に当院小児科に入院した縦隔・皮下気腫患者の臨床的特徴と転帰、喘息発作入院患者における発生率を明らかにし、26年前の同様の調査と比較しその変化を検討する目的です。
	研究期間(データ収集期間)承認後から2024年12月31日
4. 使用する診療情報	診療情報内容:縦隔気腫に合併した皮下気腫、反復例、症状(胸痛など)、喘息合併、発作程度、治療、合併感染症縦隔気腫消失日数、喘息入院患者に占める縦隔気腫患者の割合、年齢別発生頻度 対象診療期間2012年-2021年に小児科に入院し、縦隔気腫と診断された例 コントロール群として1986年-1995年で調査した例を設定。
5. 使用する検体	該当なし
6. 病名	縦隔気腫、皮下気腫

① この研究の科学的妥当性と倫理性は、当院の倫理審査委員会等において厳重に審査され、承認されています。また、調査項目は既存のデータであり、何らかの負担を生じることはありません。

② 具体的な研究内容を知りたい、あるいは、今回の研究に用いることを拒否したい場合には下記の問い合わせ窓口までご連絡下さい。

☆お問い合わせ☆

国立病院機構福岡病院管理課  
 管理課長

住所 : 〒811-1394 福岡市南区屋形原4丁目39-1

電話:092-565-5534

FAX:092-566-0702

(お問い合わせは、なるべく、FAX又は郵送でお願いいたします。)